

○計画期間：平成30年7月～令和6年3月（5年9月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和3年度終了時点（令和4年3月31日時点）の中心市街地の概況

平成30年7月より認定基本計画に基づき、基本理念「人をつなぐ、地域をつなぐ、未来につなぐ中心市街地」のもとで各事業を実施していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により多くの事業をやむを得ず中断又は延期した。影響が長期に及んでいるため、一部の事業について、実施方法や内容の見直しを行った。

国の緊急事態措置等の発令があり、観光客は国内外を問わず激減し、商店街の集客イベントは中止した。また、飲食店も営業時間短縮要請のあった夜間だけではなく、日中も含めて営業を取りやめる店もあり、「にぎわっている」とは言えない状況が続いている。

一方で、空き店舗や空き家、空き地を活用して新規に事業をしようとする動きが令和2年10月頃から見られるようになり、商工会議所等には例年の約1.5倍の相談が寄せられ、実際の出店に結びついた事例もあった。出店希望者に対しては、創業支援補助金制度を引き続き実施し、将来のにぎわい回復の布石となることを期待している。

新町ビル跡地開発事業（（仮称）市民交流プラザ建設事業）は、計画どおり令和3年10月に着工した。これまでのところ概ね順調に進んでおり、令和5年3月完成、同年夏の供用開始を目指す。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】（基準日：毎年度4月1日）

（1）居住人口（単位：人）

（中心市街地 区域）	平成29年度 （計画前年度）	平成30年度 （1年目）	令和元年度 （2年目）	令和2年度 （3年目）	令和3年度 （4年目）	令和4年度 （5年目）
人口	2,826	2,769	2,714	2,684	2,625	
人口増減数	▲66	▲57	▲55	▲30	▲59	
自然増減数	▲29	▲31	▲35	▲43	▲28	
社会増減数	▲21	▲9	▲16	9	▲34	
転入者数	55	56	72	64	57	

（資料：中津川市住民基本台帳情報）

※社会増減数には職権で住民登録が抹消された数は含まれていない。そのため、自然増減数と社会増減数の合計は人口増減数と一致しない。

(2) 事業者数

(単位：件)

	平成28年度 (計画前年度)	令和3年度 (4年目)				
市全体	4,047	3,735				
中心市街地	532					

(資料：経済センサス活動調査) ※令和3年度は調査結果公開後に掲載します。

(3) 地価

(単位：円/m²)

	平成29年度 (計画前年度)	平成30年度 (1年目)	令和元年度 (2年目)	令和2年度 (3年目)	令和3年度 (4年目)	令和4年度 (5年目)
中津川市平均 (商業地)	62,300	62,250	62,250	62,200	61,900	
太田町2丁目 (商業地)	70,200	70,200	70,200	70,200	69,900	
昭和町 (住宅地)	37,800	37,800	37,800	38,000	38,100	

(資料：岐阜県地価調査)

2. 令和3年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

新型コロナウイルス感染症が長期に及んでおり、とりわけ観光・イベント関係事業への影響が大きい。状況を注視しつつ、中断している事業はできる限り早く再開し、目標達成を目指していただきたい。本計画期間も半ばを過ぎたため、今一度進捗状況を確認し、各事業の見通しを立てたうえで、目標達成に向け事業内容の見直しや場合によっては廃止を含めた判断を早期に行うこと。

「(仮称) 市民交流プラザ建設事業」を予定どおり着工できたことは評価する。今後、中心市街地活性化の拠点となる施設であるため、計画通り着実に進めてほしい。完成後の具体的な活用方法を検討していくこと。

非常に厳しい状況ではあるが、この困難に打ち克って中心市街地ににぎわいが戻ることを期待している。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
商業の活性化による吸引力の強化	新規出店数	31 店舗	50 店舗	45 店舗	B	2	①
観光客を惹きつける資源活用の強化	特定施設等観光客入込数	123,000 人/年 (H28)	149,200 人/年 (R5)	35,100 人/年 (R3)	C	①	①
市民の居場所や活動の場所としての魅力の強化	都市福祉施設利用者数	322,566 人/年 (H28)	430,000 人/年 (R5)	181,544 人/年 (R3)	C	②	②
	歩行者通行量	4,525 人/日 (H29)	5,062 人/日 (R5)	3,200 人/日 (R3)	C	①	①

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

①目標達成が見込まれる。

②目標達成が見込まれない。

関連する事業等の進捗状況が順調でない場合は、それぞれ1、2とする。

2. 目標達成見通しの理由

(1) 「新規出店数」について

主に空き店舗対策事業及び空き店舗活用支援事業により出店者を支援している。新規出店しようとする動きがみられ、新型コロナウイルス感染症の影響下にも関わらず7件の出店があった。新規出店しようとする動きは現在も継続しており、目標達成できる見込みとなった。

(2) 「特定施設等観光客入込数」について

新型コロナウイルス緊急事態宣言の発令等があり、施設の一時閉鎖や閉館、イベントの中止が相次ぎ、来場者数は少ない状況が続いている。新型コロナウイルス感染症が収束しイベント等を再開できれば、新型コロナウイルス感染症発生前の令和元年度と同程度の数を見込んでいるが、令和4年度の状況を見極めたい。

(3) 「都市福祉施設利用者数」について

引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の開放中止・開放時間短縮等があり、どの施設も利用者数が少ない状況が続いている。感染症が収束すれば利用者数は従前と同程度まで回復する見込みであるが、新型コロナウイルス感染症発生前の令和元年度における増加数は目標を下回っており、目標達成は非常に厳しい状況である。

(4) 「歩行者通行量」について

調査実施時期が国の緊急事態宣言発令中であったことと、調査当日が大雨だったことが影響し、前年度の調査結果から大幅に減少した。緊急事態宣言等の発令がなければ、令和元年度又は令和2年度と同程度の通行量が維持できると判断しているが、令和4年度の調査結果を注視し今後を見極める。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

(1) 「新規出店数」について

新規出店の相談が増えており、現在もその状況が継続していることと、令和3年度中に7件の出店があった結果、進捗遅れが解消され目標達成できる見込みとなったため。

(2) 「特定施設等観光客入込数」について

前回から変更はない。

(3) 「都市福利施設利用者数」について

前回から変更はない。

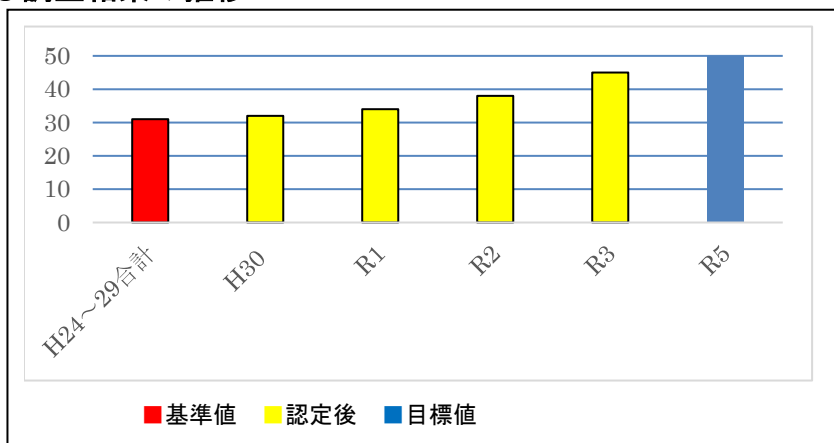
(4) 「歩行者通行量」について

前回から変更はない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

「新規出店数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 67 参照

●調査結果の推移



年	(店舗)
H24~29合計	31
H30	32
R1	34
R2	38
R3	45
基準値	50
+H30~R5合計	(目標値)

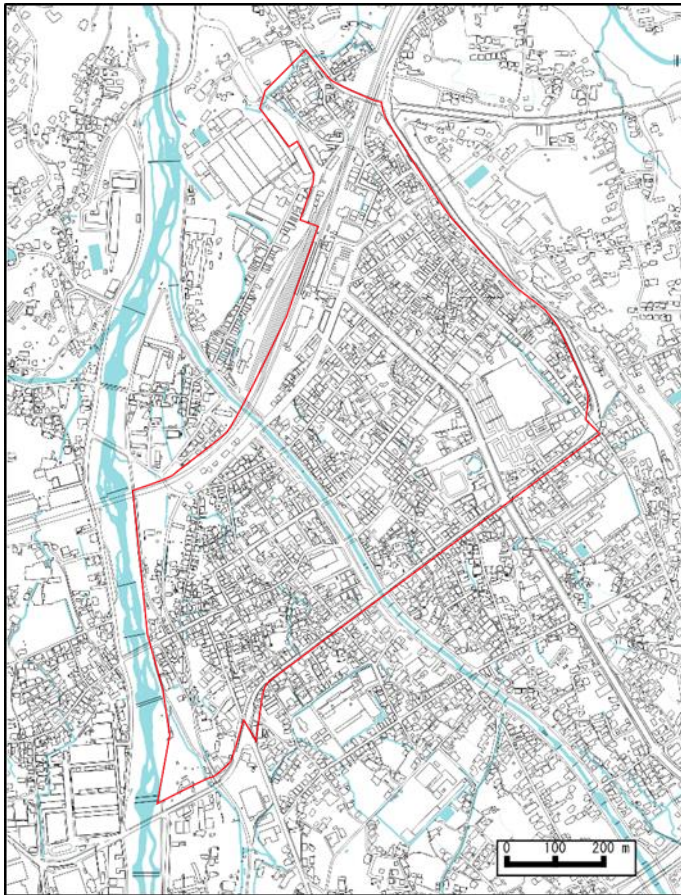
※調査方法：市及び商工会議所が関わった支援の結果、出店に結びついた者の集計

※調査月：毎年3月末

※調査主体：中津川市、中津川商工会議所

※調査対象：中心市街地での出店者

●調査地点図 (中心市街地全域が対象)



(単位：件)

	平成 29 年度 (計画前年度)	平成 30 年度 (1 年目)	令和元年度 (2 年目)	令和 2 年度 (3 年目)	令和 3 年度 (4 年目)	令和 4 年度 (5 年目)
空き店舗活用	3	0	0	0	1	
空き店舗活用支援	3	1	2	4	5	
歴史的資産を活用 した町家再生	0	0	0	0	0	
トライアルショップ	0	0	0	0	1	
合計	6	1	2	4	7	

<分析内容>

まちづくり会社が管理する「空き店舗データベース」を更新したことと、令和 2 年度に創設した市の「創業・第二創業支援補助金」の効果により、新規出店が促進されている。また、移転したまちづくり会社の旧事務所を改装し、小規模事業者を対象としたトライアルショップを兼ねたレンタルオフィスも需要があり、入居者が将来に中心市街地内の空き店舗で出店されることを期待している。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 空き店舗対策事業（まちづくり会社・民間団体）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	中心市街地に存在する空き店舗や所有者の調査を行いながら、所有者と出店希望者を結び付ける。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（空き店舗対策関連事業による新規出店数）：12店舗（内数） 令和元年度に実施した空き家等現況調査を基に作成した地図を活用し、出店希望者のニーズに合わせた情報提供ができるようになった。また、令和3年度にデータを更新し、1件出店させることができた。好評だった「空き店舗ツアー」は新型コロナウイルス感染症の影響のため中止したが、令和4年度の実施に向けた準備を行った。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら「空き店舗ツアー」を再開し、出店希望者と空き店舗等所有者を結びつけ、新規出店を促進させる。

②. 空き店舗活用支援事業（中津川市）

事業実施期間	平成29年度～令和5年度【実施中】
事業概要	空き店舗を活用して出店する場合に、改修費用等の1/2を上限として最大50万円を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和2年度～令和4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（空き店舗対策関連事業による新規出店数）：12店舗（内数） 出店時の改修費用等の一部を補助することで、事業者の軽減を図るとともに創業実現の促進を図り、空き店舗を解消した。 令和3年度にこの補助制度を利用した出店は5件あった。
事業の今後について	中心市街地地域外との兼ね合いもあるが、補助制度の見直しを含めてより中心市街地で創業推進できる方法を探り、出店者を増やす。

③. 歴史的資産を活用した町家再生事業（まちづくり会社・中津川市・商工会議所・商店街ほか）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	官民が連携して中津川宿に現存する歴史的建築物を改修し、ゲストハウスや飲食店などとして活用することで、滞在、滞留する観光客数の増加を図る。

国の支援措置名及び支援期間	地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金（中心市街地再興戦略事業）のうち調査事業（経済産業省）（平成30年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による新規出店数）：5件 中山道を中心とした中心市街地内の町家に関して、令和元年度に地域住民並びに市内宿泊施設利用者（日本人・外国人両方）を対象に、ニーズ調査、マーケティング調査としてアンケートを実施。結果、カフェのニーズが高いことがわかった。 新型コロナウイルスの影響により、令和3年度も事業を中断した。
事業の今後について	感染症の状況を見ながら早期に事業再開し、ニーズ、マーケティング調査結果を基に、建物所有者との折衝、入居者の募集など、改修に向けて準備を進めていく。 町家を購入して飲食店を出店しようとする民間事業者があり、動向を注視するとともに、必要な支援を検討する。

④ . トライアルショップ事業（まちづくり会社）

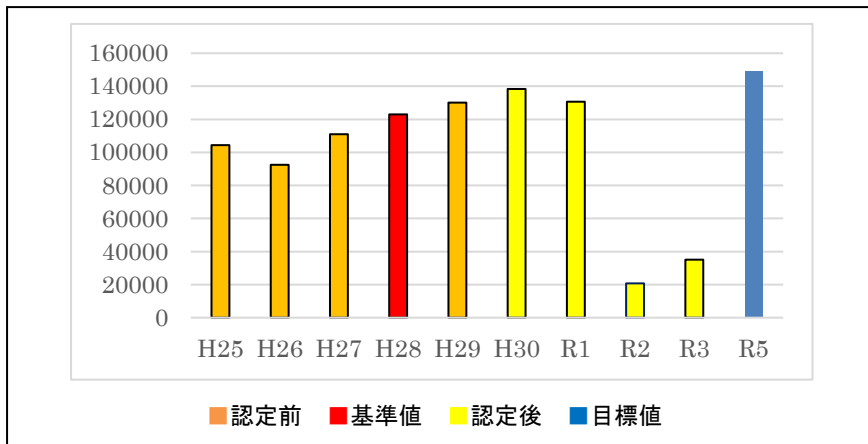
事業実施期間	令和元年度～令和5年度【実施中】
事業概要	まちづくり会社が休業日の店舗等を借り受けてトライアルショップとして活用することで、新たな出店希望者の掘り起こしと新規出店に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による新規出店数）：2件 令和元年度に交渉していた物件には、まちづくり会社が事務所として移転（入居）した。旧事務所を改装してレンタルオフィス（トライアル企業として短期間のレンタルも可）として小規模事業者に貸し出しを2月より開始し、6区画中3区画に入居があった。
事業の今後について	引き続き、トライアルショップに活用できそうな店舗を模索するとともに、まちづくり会社新事務所内で「棚貸し」を実施するなどの、新たな手法を検討する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

令和2年度から創業を支援する新たな補助制度を開始した効果もあって、令和3年度は7件の新規出店につながり、目標達成できる目途が立った。今後も空き店舗調査結果と創業支援補助制度を積極活用し、目標達成を目指す。

「特定施設等観光客入込数」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 68～P. 69 参照

●調査結果の推移



年	(人/年)
H25	104,400
H26	92,500
H27	111,000
H28	123,000 (基準値)
H29	130,130
H30	138,378
R1	130,677
R2	20,749
R3	35,100
R5	149,200 (目標値)

※調査方法：対象イベント及び施設への年間来場者数の合計

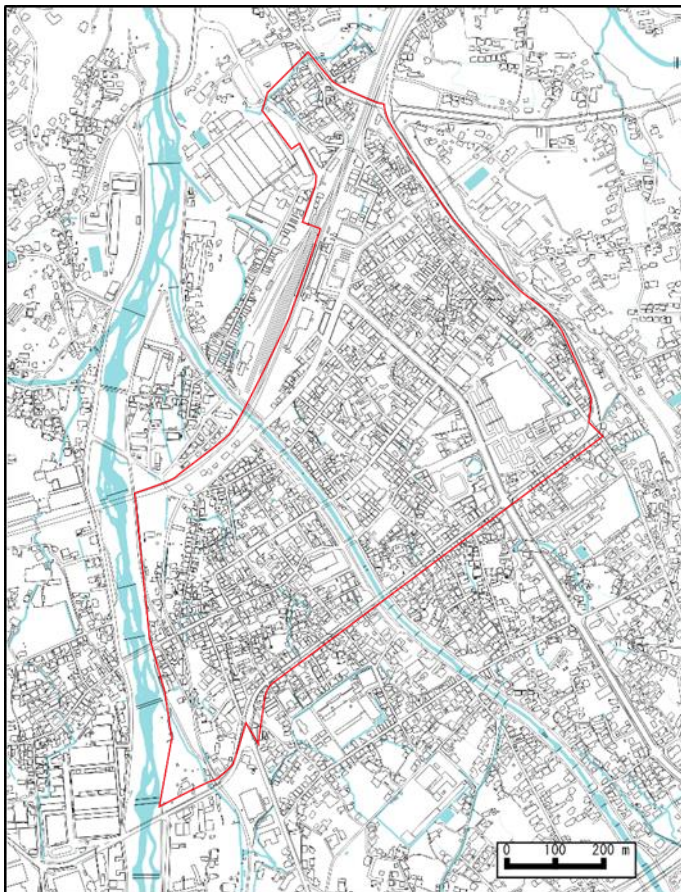
※調査月：毎月1回

※調査主体：中津川市

※調査対象：「春・秋の中山道まつり」、「中山道中津川宿六斎

市事業」、「中山道歴史資料館」、「まちなか歴史発見散歩事業」、「地域文化資源を活用した体験型観光推進事業」、「間家大正の蔵活用公開事業」、「歴史的資産を活用した町家再生事業」

●調査地点図…（中心市街地の全域が対象）



(単位：人)

	平成 29 年度 (計画前年度)	平成 30 年度 (1 年目)	令和元年度 (2 年目)	令和 2 年度 (3 年目)	令和 3 年度 (4 年目)	令和 4 年度 (5 年目)
春・秋の中山道まつり	40,000	42,000	47,000	8,000	9,500	
中山道中津川六斎市	61,000	59,000	45,500	5,000	16,000	
中山道歴史史料館	29,130	35,862	36,217	7,198	9,082	
まちなか歴史発見散歩事業		95	52	0	0	
地域文化資源を活用した体験型観光事業		0	0	0	0	
間家大正の蔵公開事業		1,421	1,908	551	518	
歴史的資産を活用した町家再生		0	0	0	0	
合計	130,130	138,378	130,677	20,749	35,100	

<分析内容>

新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的としたイベント中止や縮小開催の影響により、春・秋の中山道まつり、中山道中津川六斎市、まちなか歴史発見散歩事業は相変わらず少ない水準ではあるが、感染症対策を実施したうえでできる限り開催を試みた効果があり、令和 2 年度より改善がみられた。中山道歴史資料館と間家大正の蔵は、感染症対策を実施し、できるかぎり会館するようにした効果がみられる。

体験型観光事業は事業開始の目途が立っていないが、国内観光者向けメニューに変更を検討し、早期開始を目指す。

民間事業者に町家を活用して出店しようとする動きがあり、動向を注視している。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 春・秋の中山道まつり（六斎市実行委員会・中津川商店街連盟）

事業実施期間	平成 20 年度～令和 5 年度【実施中】
事業概要	中津川市内の中山道で行う、商店街が中心となった祭り。商店街が趣向を凝らしたイベントを実施し、集客を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による観光客入込数の増加）：4,000 人 中山道中津川宿としての知名度向上に寄与しており、毎月の六斎市と同時開催することで、集客力を高めている。令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、春は中止、秋も縮小開催となっ

	たため、来場者数は9,500人とどまった。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、できる限り開催を目指し、引き続き魅力的なイベントを企画、広報し、市外からの観光客を取り込むことでにぎわいを増加させる。

② 中山道中津川宿六斎市事業（六斎市実行委員会・中津川商店街連盟）

事業実施期間	平成20年度～令和5年度【実施中】
事業概要	江戸時代に中津川宿で開かれていた六斎市を、月に一回定期的に開催する。各店舗の出店と、毎回異なるイベントの開催により集客を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による観光客入込数の増加）：5,900人 毎回のイベントに工夫を凝らすことで来場者を飽きさせず、リピーターが増えてきている。新型コロナウイルスの影響により、令和3年度は開催回数4回、来場者数も累計で16,000人とどまったが、感染症対策方法を確立し、安心して来場していただける環境を整備した。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の影響で、イベント中止が長期化することが懸念されているが、収束後の回復を目指し、近隣市町村と連携を取りながら事業を推進する。

③ まちなか歴史発見散歩事業（まちづくり会社・中津川市）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	まちなかの歴史スポットをガイドとともに巡る歴史散策小ツアーを定期開催し、まちなかを回遊する観光客の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による観光客入込数の増加）：360人 ガイドが魅力的な語り口で案内するため、歴史やまち歩きに興味のある参加者が多く集まる人気の事業。複数ある歴史スポット目指して歩き回ること回遊性を高めることを目的としているが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止した。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、早期に事業を再開し、課題であるガイドの養成を実施する。

④ 地域文化資源を活用した体験型観光推進事業（中津川商店街連盟・まちづくり会社）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	まちづくり会社と商店街が連携し、インバウンドを対象にした地域

	の伝統や文化に触れて体験するツアーを実施し、商店街のにぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による観光客入込数の増加）：120人 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度は事業を中断した。体験メニューとして提供できるものは何かを洗い出し、方向性を引き続き検討する。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の状況と、インバウンドの動向を注視しながら、商店街が中心となり、外国人向けの浴衣体験や琴の演奏など、どのようなメニューが最善か検討したうえで実施し、集客を目指す。

⑤ . 間家大正の蔵活用公開事業（中津川市）

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【実施中】
事業概要	新たな観光スポットとするため、施設を改修、公開する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による観光客入込数の増加）：5,185人 新たな観光スポットとして改修・公開することで、来場者数の増加を図る。商業的活用として、令和元年度にカフェをイベントに合わせて設置した。新型コロナウイルス感染症の影響により一時閉館したこともあり、令和3年度の入場者数は518人で、前年度と比べて微減した。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の収束とともに、来場者数は回復するものと見込んでいるが、より多くの観光客に利用される機能を検討し、さらなる集客を目指す。

⑥ . 歴史的資産を活用した町家再生事業（まちづくり会社・中津川市・商工会議所・商店街ほか）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	官民が連携して中津川宿に現存する歴史的建築物を改修し、ゲストハウスや飲食店などとして活用することで、滞在、滞留する観光客数の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金(中心市街地再興戦略事業)のうち調査事業（経済産業省）（平成30年度）
事業目標値・最新	事業目標値（当事業による観光客入込数の増加）：8,568人

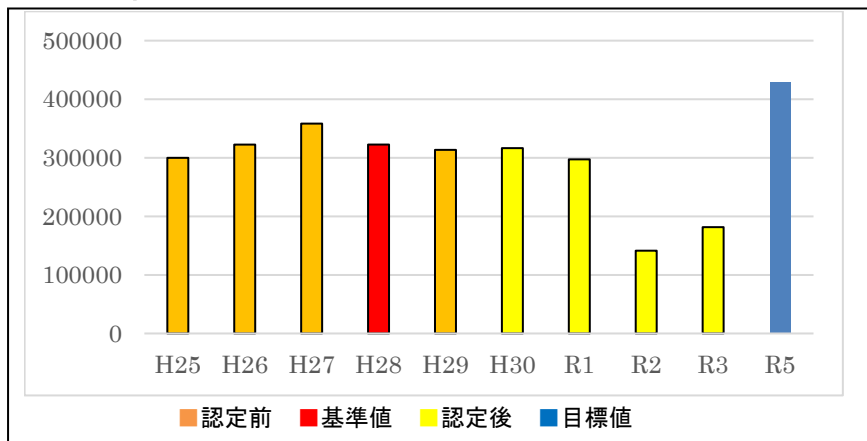
値及び進捗状況	中山道を中心とした中心市街地内の町家に関して、令和元年度に地域住民並びに市内宿泊施設利用者（日本人・外国人両方）を対象に、ニーズ調査、マーケティング調査としてアンケートを実施。結果、カフェのニーズが高いことがわかった。 新型コロナウイルスの影響により、令和3年度は事業を中断した。
事業の今後について	感染症の状況を見ながら早期に事業再開を目指す。ニーズ、マーケティング調査結果を基に、建物所有者との折衝、入居者の募集など、改修に向けて準備を進めていく。 町家を購入して飲食店を出店しようとする民間事業者があり、動向を注視するとともに、必要な支援を検討する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

新型コロナウイルスの影響により、イベント中止、施設の一時的閉鎖、事業の縮小があり、令和3年度も非常に低い実績にとどまった。令和元年度までは、外国人観光客の増加や、中山道まつりや六斎市への来客数の増加等で数値は伸びてきていたもので、新型コロナウイルス感染症の収束とともに回復を見込んでいるが、影響が長期となっており、回復の鈍化が懸念される。インバウンドを対象とした事業を国内観光客向けの内容に変更するなどの事業見直しを行い、目標達成を目指す。

「都市福利施設利用者数」※目標設定の考え方認定基本計画P.70～P.72参照

●調査結果の推移



年	(人/年)
H25	299,877
H26	322,501
H27	358,343
H28	322,566 (基準値)
H29	313,494
H30	316,463
R1	297,282
R2	141,351
R3	181,544
R5	430,000 (目標値)

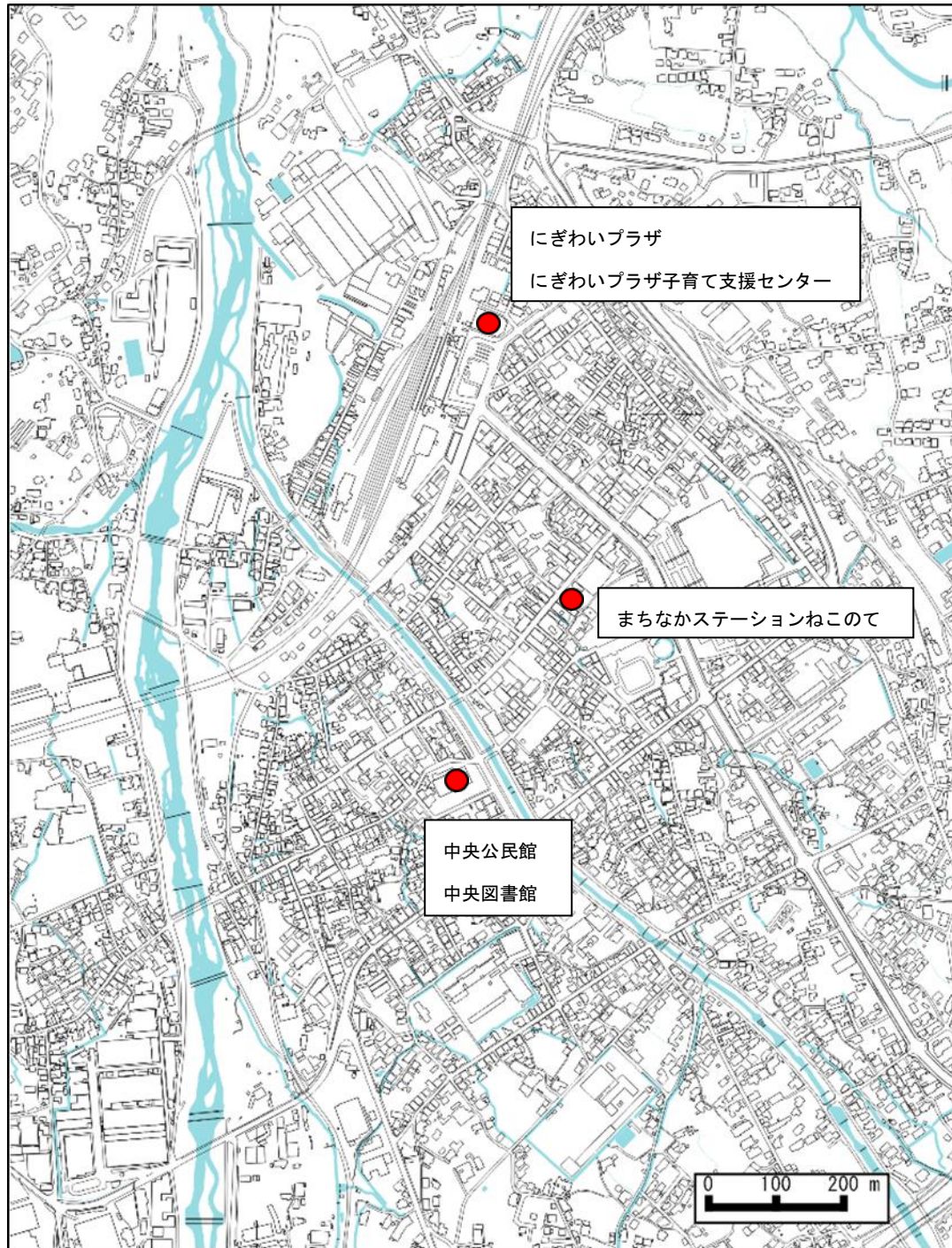
※調査方法：対象施設の年間利用者数を合計

※調査月：毎年3月末

※調査主体：中津川市

※調査対象：「にぎわいプラザ（貸部屋）」、「にぎわいプラザ子育て支援センター」、「中央公民館（貸部屋）」、「中央図書館」「まちなかステーションねこのて」

●調査地点図



(単位：人)

	平成 29 年度 (計画前年度)	平成 30 年度 (1 年目)	令和元年度 (2 年目)	令和 2 年度 (3 年目)	令和 3 年度 (4 年目)	令和 4 年度 (5 年目)
にぎわいプラザ (貸部屋)	55,037	54,313	51,504	7,934	18,448	
にぎわいプラザ子 育て支援センター	8,941	8,031	7,764	4,406	3,942	
中央公民館	82,389	88,715	77,033	36,977	45,864	

(貸部屋)						
中央図書館	163,941	162,348	157,756	89,900	111,269	
まちなかステーションねこのて	3,186	3,056	3,225	2,134	2,021	
合計	313,494	316,463	297,282	141,351	181,544	

<分析内容>

新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的とした施設閉鎖や利用時間短縮の影響で、どの施設も利用者数が低い水準となっている。また、にぎわいプラザは施設の老朽化と構造の問題から換気機能の改善ができず、感染症収束まで完全に開放ができない状況となっている。

中央公民館、中央図書館は施設の改修と催事の開催方法の変更を行った効果があり、令和2年度と比較すると大きく改善している。

まちなかステーションねこのては、隣接していた駐車場が新町ビル跡地開発事業（(仮称) 市民交流プラザ）の建設用地として利用できなくなったこともあり、減少した。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 新町ビル跡地開発事業【子育て支援機能】（中津川市）

事業実施期間	令和元年度～令和4年度【実施中】
事業概要	子育て支援、観光案内機能等を持ち合わせた複合的都市福利施設の整備を行い、まちなかのにぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和3年度～令和4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値(当事業による都市福利施設利用者数の増加):10,161人子、親、祖父母の3世代の交流の場としての機能を備え、多くの市民の快適な居場所となり、街中の賑わいを創出する。年間10,161人の来館者を見込む。令和3年10月に着工した。
事業の今後について	令和5年度の供用開始に向けて、令和5年3月の完成を目指す。

②. まちなかステーションねこのて事業（中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	平成27年度～令和5年度【実施中】
事業概要	親子を対象にした飲食の提供、母親同士のコミュニケーションの場を提供し、子育て支援の拠点となる事業である。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値(当事業による都市福利施設利用者数の増加):1,477人新たな利用者を増やすため、令和元年度には中山道六斎市の開催日

	も営業するなど見直しを行った。新型コロナウイルスの影響により親子の利用者の減少や、営業自粛を行ったこともあり、令和3年度の利用者数は2,021人にとどまった。
事業の今後について	建設中の（仮称）市民交流プラザが隣接する。供用開始を見据え、事業の方向性を含めた見直しを令和4年度中に実施する。

② 新町ビル跡地開発事業【貸施設機能】（中津川市）

事業実施期間	令和元年度～令和4年度【実施中】
事業概要	子育て支援、観光案内機能等を持ち合わせた複合的都市福利施設の整備を行い、まちなかのにぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和3年度～令和4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による都市福利施設利用者数の増加）：4,320人（内数） 市民や団体の活動、各種イベントに活用されることで、年間4,320人の利用を見込んでいる。市民が交流することで、まちなかの人の流れの増加に効果がある。令和3年10月に着工した。
事業の今後について	令和5年度の供用開始に向けて、令和5年3月の完成を目指す。

④ にぎわいプラザ利活用促進事業（中津川市）

事業実施期間	平成20年度～令和4年度【実施中】
事業概要	様々な用途で使える会議室、個展やイベント等が開催できる展示スペース、オフィススペース等を提供する。市民や団体が利用することで駅前のにぎわいが創出される。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による都市福利施設利用者数の増加）：4,320人（内数） 新型コロナウイルスの影響により、換気機能が十分ではない会議室の貸し出しを中止した。年間利用者数は18,448人となり、前年度より10,514人上回ったが、令和元年度実績の1/3程度である。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の収束とともに、利用者数は回復すると見込んでいる。引き続き、利用者からの要望にできる限り答えることで利便性・快適性を高め、利用者数の増加を目指す。

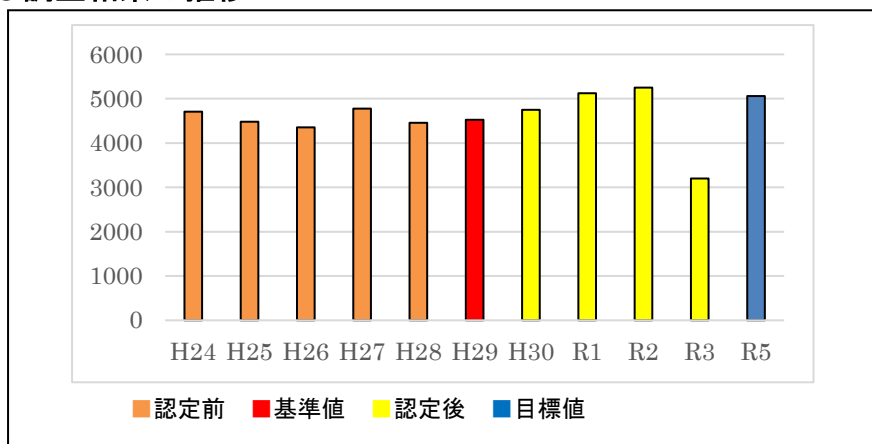
●目標達成の見通し及び今後の対策

新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の一時閉鎖や時間短縮が行われたため、目標数値を大幅に下回っている。新型コロナウイルス感染症が収束すればある程度の回復を見込んでいるが、どこまで回復するかは不透明のため今後の動向を注視する。

まちなかステーションねこのでは、隣接する新町ビル跡地に建設中の（仮称）市民交流プラザと子育て支援の目的が重複するため、すみわけを行うなどの事業の見直しを行う。

「歩行者通行量」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 73～P. 74 参照

●調査結果の推移



年	(人/日)
H24	4,708
H25	4,481
H26	4,354
H27	4,777
H28	4,457
H29	4,525
(基準値)	
H30	4,750
R1	5,124
R2	5,251
R3	3,200
R5	5,062
(目標値)	

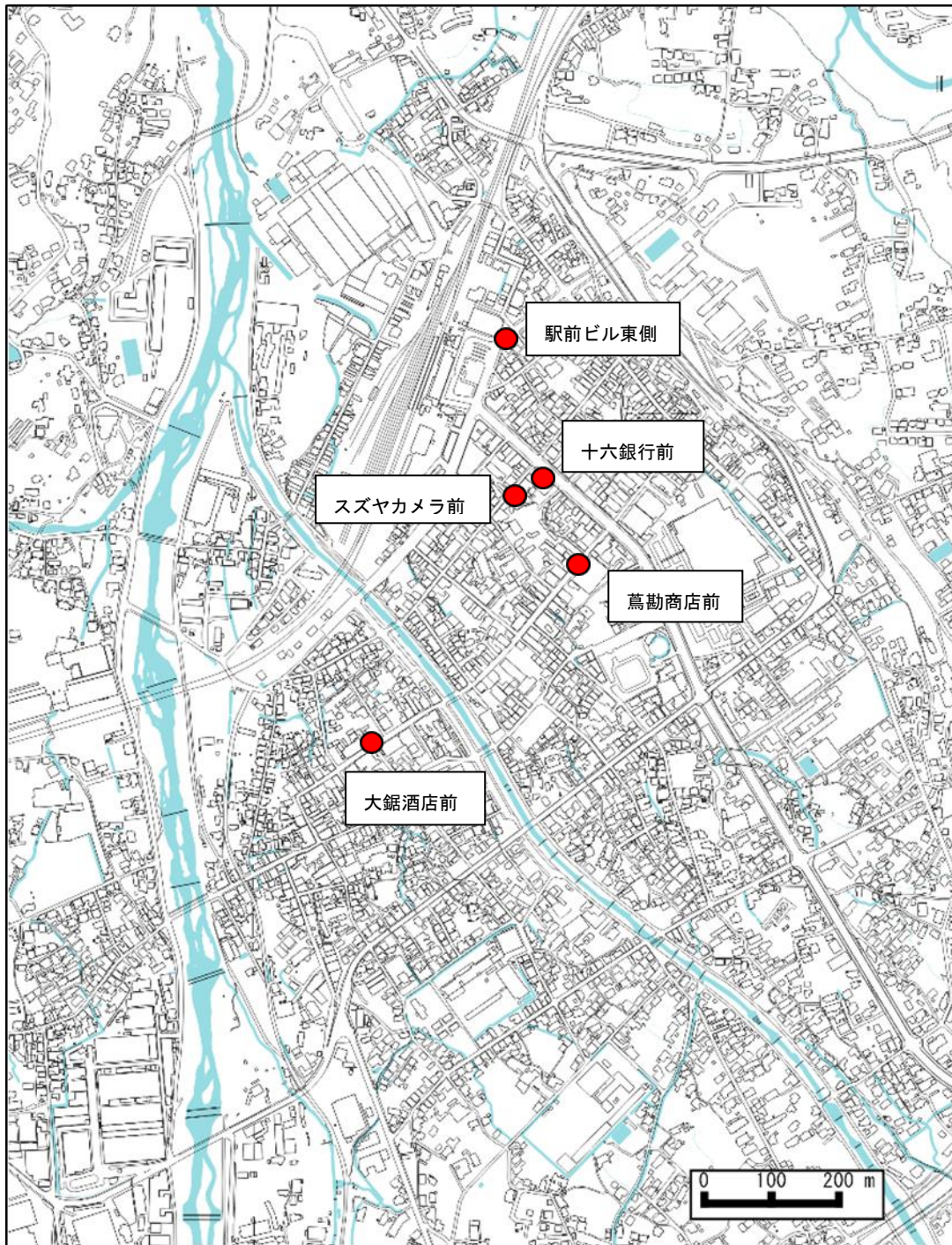
※調査方法： 実質測定値

※調査月： 毎年9月末（平日）

※調査主体： 中津川市

※調査対象： 中心市街地内5ヶ所（蔦勤商店前、スズヤカメラ前、十六銀行前、駅前ビル東側、大鋸酒店前）を通行する歩行者

●調査地点図



(単位：人)

	平成 29 年度 (計画前年度)	平成 30 年度 (1 年目)	令和元年度 (2 年目)	令和 2 年度 (3 年目)	令和 3 年度 (4 年目)	令和 4 年度 (5 年目)
鳶勘商店前	654	555	582	498	512	
スズヤカメラ前	481	410	412	396	313	
十六銀行前	1,468	1,608	1,769	1,527	1,240	
駅前ビル東側	1,540	1,953	2,052	2,517	914	
大鋸酒店前	382	224	309	313	221	
合計	4,525	4,750	5,124	5,251	3,200	

<分析内容>

令和3年度は、調査を実施した当日、新型コロナウイルス感染症非常事態が出されたことと、大雨が降っていたこともあり交通量は例年と比較しても低い水準となった。特に、駅前ビル東側は、普段は観光客や学生などが多く通行する場所だが、これらが原因で大幅に少なくなっている。一方で蔦勘商店前は地区内で大型工事が始まったこともあり、若干増加した。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 新町ビル跡地開発事業（中津川市）

事業実施期間	令和元年度～令和4年度【実施中】
事業概要	子育て支援、観光案内機能等を持ち合わせた複合的都市福利施設の整備（仮称・市民交流プラザ）を行い、まちなかのにぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和3年度～令和4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による歩行者通行量の増加）：194人 中心市街地の拠点施設として、年間337,651人の利用を見込む。来館者がまちなかに流れ、歩行者数の増加に貢献する。令和3年10月に着工した。
事業の今後について	令和5年度の供用開始に向けて、令和5年3月の完成を目指す。

②. 統一案内サイン整備事業（中津川市）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	中津川駅前から中山道エリアに至るまでの案内機能を充実させることで、観光客をまちなかへ誘導し回遊性を高める。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による歩行者通行量の増加）：15人 案内サイン設置により、外国人観光客のまちなかへの回遊が1日15人増加すると見込む。新型コロナウイルス感染症の影響で、令和3年度は事業を中断した。
事業の今後について	新型コロナウイルスの影響により、インバウンドの動向が変化したため、事業の目的、方向性を含めた抜本的見直しを実施する。

③. 旧中津川幼稚園跡駐車場整備事業（中津川市）

事業実施期間	令和3年度～令和4年度【実施中】
事業概要	新町ビル跡地開発事業に合わせて駐車場を整備する。

国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（令和3年度～令和4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による歩行者通行量の増加）：43人（内数） 新町ビル跡地に建設される施設利用者の利便性を高め、利用者数を増加させるとともに、まちなかへの回遊性を促進させ、1日あたり43人の歩行者数の増加に貢献する。令和3年10月、（仮称）市民交流プラザの着工に合わせて整備開始。
事業の今後について	令和5年度の供用開始に向け、令和5年3月の整備完了を目指す。

④. にぎわい広場駐車場整備事業（中津川市）

事業実施期間	令和3年度～令和4年度【実施中】
事業概要	新町ビル跡地開発事業に合わせて駐車場を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による歩行者通行量の増加）：43人（内数） 新町ビル跡地に建設される施設利用者の利便性を高め、利用者数を増加させるとともに、まちなかへの回遊性を促進させ、1日あたり43人の歩行者数の増加に貢献する。施設建設に合わせて整備を行う計画だったが、施設から少し離れた場所であることを理由に、整備の必要性を再度検討することとなった。
事業の今後について	令和4年度中に整備又は活用についての方向性の結論を出したうえで、今後の計画を行う。

⑤. 空き店舗対策事業（まちづくり会社・民間団体）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	中心市街地に存在する空き店舗や所有者の調査を行いながら、所有者と出店希望者を結び付ける。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による歩行者通行量の増加）：192人 令和元年度に実施した空き家等現況調査を基に作成した地図を活用し、出店希望者のニーズに合わせた情報提供ができるようになった。また、令和3年度にデータを更新し、新たに1件出店させることができた。好評だった「空き店舗ツアー」は新型コロナウイルス感染症の影響のため中止したが、令和4年度の実施に向けた準備を行った。
事業の今後について	空き店舗等の地図情報の活用とコロナウイルスの状況もあるが、引き続き「空き店舗ツアー」を実施し、出店希望者と空き店舗等所有

者を結びつけ、新規出店を促進させ、歩行者通行量を増加させる。

⑥. 歴史的資産を活用した町家再生事業（まちづくり会社・中津川市・商工会議所・商店街ほか）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	官民が連携して中津川宿に現存する歴史的建築物を改修し、ゲストハウスや飲食店などとして活用することで、滞在、滞留する観光客数の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金（中心市街地再興戦略事業）のうち調査事業（経済産業省）（平成30年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による歩行者通行量の増加）：8人 中山道を中心とした中心市街地内の町家に関して、令和元年度に地域住民並びに市内宿泊施設利用者（日本人・外国人両方）を対象に、ニーズ調査、マーケティング調査としてアンケートを実施。結果、カフェのニーズが高いことがわかった。 新型コロナウイルスの影響により、令和3年度も事業を中断した。
事業の今後について	感染症の状況を見ながら早期に事業再開し、ニーズ、マーケティング調査結果を基に、建物所有者との折衝、入居者の募集など、改修に向けて準備を進めていく。 町家を購入して飲食店を出店しようとする民間事業者があり、動向を注視するとともに、必要な支援を検討する。

⑦. トライアルショップ事業（まちづくり会社）

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【実施中】
事業概要	まちづくり会社が休業日の店舗等を借り受け、トライアルショップとして活用することで、新たな出店希望者の掘り起こしと新規出店に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による歩行者通行量の増加）：32人 令和元年度に交渉していた物件には、まちづくり会社が事務所として移転（入居）した。旧事務所を改装してレンタルオフィス（トライアル企業として短期間のレンタルも可）として小規模事業者に貸し出しを2月より開始し、6区画中3区画に入居があった。
事業の今後について	引き続き、トライアルショップに活用できそうな店舗を模索するとともに、まちづくり会社新事務所内で「棚貸し」を実施するなどの、新たな手法を検討する。

⑧. まちなか通行手形事業（まちづくり会社）

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【実施中】
事業概要	商店街での商品購入の際に、ポイントの付与や優遇特典等を手形として発行する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による歩行者通行量の増加）：20人 実施方法に関する情報の収集と検討に着手していたが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中断した。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業再開の目途が立たない中、商店街の負担も厳しい状況となっており、事業実施の可否を含めて令和4年度に見直しを行う。DX化することなど、多角的に手法の検討を行う。

⑨. まちなか美術館事業（中津川市）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	中心市街地の商店や公共施設等に市や団体、個人が所有する絵画を展示することで、有名な画家を多く輩出した文化のまちのイメージを高める。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による歩行者通行量の増加）：25人 新型コロナウイルス感染症の影響で、令和3年度は中止した。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、早期の再開を目指す。展示場所として、商店街内で設置できる場所を検討していく。美術に関心のある者が訪れて回遊性が上がり、歩行者数の増加が見込まれる。

⑩. 間家大正の蔵活用公開事業（中津川市）

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【実施中】
事業概要	新たな観光スポットとするため、施設を改修、公開する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による歩行者通行量の増加）：34人 大正時代の建築物を展示会や飲食等ができる観光スポットとして整備し、観光客入込数の増加に寄与する。令和元年度はイベント開催時に中庭にカフェを設置した。令和3年度も前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で閉館や時間短縮があり、入館者は518人とどまった。
事業の今後について	カフェ設置のほかに、観光資源としてより多くの観光客に利用され

いて	る仕組みを検討する。より魅力的な施設にすることで集客数が上がり、歩行者数の増加が見込まれる。
----	--

⑪. まちなかステーションねこのて事業（中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	平成27年度～令和5年度【実施中】
事業概要	親子を対象にした飲食の提供、母親同士のコミュニケーションの場を提供し、子育て支援の拠点となる事業である。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値（当事業による歩行者通行量の増加）：36人 新たな利用者を増やすため、令和元年度には中山道六斎市の日にも営業するなど見直しを行った。新型コロナウイルスの影響による休業や時間短縮営業要請があり、令和3年度の利用者数は2,021人と低い水準にとどまった。
事業の今後について	令和元年度の時点ではほぼ目標数値となっていたため、新型コロナウイルス感染症が収束すれば回復すると見込んでいたが、親子の利用者が大きく減少しており、回復の鈍化が懸念される。隣接する（仮称）市民交流プラザの供用開始を見据え、令和4年度に今後の方向性を含めて検討する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

新型コロナウイルスの影響により観光客が激減し、観光客を中心市街地へ回遊させる事業を軒並み中断又は延期した。令和3年度は様々な悪条件が重なり、交通量が非常に少なくなっているが、十分な対策を実施したうえでできる限りイベント等を開催する方針に変更したため、令和4年度以降は令和2年度並みの水準に戻るものと期待している。

新町ビル跡地開発事業は順調に進んでおり、予定通り完成すれば、感染症の影響に関わらず目標達成できると見込んでいる。